

本学の教員養成に対する理念と育てたい教員像

本学の教員養成に対する理念は、建学の精神「捨我精進」に基づいて、社会福祉の精神・知識・技術を基盤として、幼児教育や学校教育の現場で貢献できる人材を育成することです。

田園調布学園大学の建学の精神である「捨我精進」とは、自己本位の考えをできるだけ捨て、社会のために積極的に尽くし、精魂傾けて努力することを意味しています。本学は、この建学の精神に基づく人間尊重を大切に、時代の要請に対応できる柔軟な思考力と行動力があり、人間性豊かで、地域社会や国際社会の福祉に貢献できる教員を育成することを目指しています。

教員養成においては、この建学の精神をわかりやすく伝えるために、2010年から「**考えよう。自分のために何ができるかではなく、他人のために何ができるかを。**」をスローガンとして学生指導をおこなっています。

具体的には、以下の4つの観点をめぐって、理論と実践の往還(往復)を図りながら省察(深い反省と考察)を繰り返し、学生が自ら成長していくことを重視しています。

- ① 教育に対する情熱と熱意
- ② 他と連携する協調性
- ③ 子どもが求めていることへの理解
- ④ 子どもの主体性を伸ばす指導力

《教職課程を設置した趣旨について》

家庭や地域など子どもの育つ環境の変化や、今日的課題と言える保護者の多様なニーズについて考え、子育ての不安や悩みに関する相談や教育に関する相談に対応し、心の教育の重要性を認識した指導を実践するなど、現代社会は、子どもの福祉や教育・保育について深く思考し実践できる専門性の高い教師を求めています。

こうした時代の要請に応えるため、子どもから高齢者までのすべてのライフ・ステージに対応する福祉を支える人材を養成する福祉教育を推進していることが、本学の教育の特性です。そこで、教職課程としては、教育・保育を支える人材を養成するため、子ども未来学科に幼稚園教諭の教職課程を設置しました。また、福祉領域の専門性を生かした「特別支援」や「福祉科」、福祉領域と深くかかわる「社会・公民科」の教員を輩出することを目的に心理福祉学科にも教職課程を設置しました。

さらに、平成27年4月より、こうした学部教育を基盤とし、現代社会においてさらに求められる高度な専門性である「人間学的学識に基づいた省察的实践力」を備えた高度専門職業人の人材養成を新たに掲げ、**大学院「人間学研究科子ども人間学専攻」の開設**ならびに**幼稚園教諭専修免許課程**を設置しました。